



社団法人 日本理学療法士協会

富山県士会ニュース

平成16年度 3 (通算 95号)

総会員数 251名 (休会22名)

全85施設

2004.12.15 発行人 日本理学療法士協会 富山県士会
 〒936 0023 滑川市柳原149 9 富山医療福祉専門学校 理学療法学科内 ☎(076) 476 1716
 代表: 荻島 久裕 編集: 赤尾 健志 印刷: 志貴野 苑
 士会 URL: <http://toyamapt.umin.ne.jp/> 事務局アドレス: toyamapt-office@umin.ac.jp

CONTENTS

第20回東海北陸理学療法学会



第20回東海北陸理学療法学会 ... 2 ~ 5	シリーズ職場紹介SPOTその4814
社会事業部の活動より6 ~ 7	士会員の独り言.....14
施設見学ツアー8	C P 伝言版.....15
イレクターの魅力8	富山県理学療法士会賛助会員名簿...15
「身障スポーツ対応委員会」大会サポート報告...9	会員異動状況.....15
第4回第5回理事会報告.....10 ~ 11	スケジュール予定表.....15
学術資料部からのお知らせ.....12	事務局インフォメーション・広報部の窓口16
2005年は生涯学習基礎プログラムの 更新年です.....13	渉外部の相談窓口・編集後記16
生涯学習委員会からのお知らせ.....13	求人広告.....17 ~ 22

第20回東海北陸理

2004年10月30日・31日、富山県民会館にて第20回東海北陸理学療法学会大会が開催されました。節目の大会ということもあり、県内外から多数の理学療法士の先生方が参加され、盛大に行われました。開会の辞の後、荻島久裕大会長より挨拶があり、医療・保健・福祉それぞれの分野において理学療法士の活躍する場が広がっていることや今後の課題についてのお話がありました。大会のテーマは「理学療法とマネジメント」と題され、各会場において様々なイベントが行われました。

開会式後、第一会場では広島大学大学院教授奈良勲先生による「理学療法士とマネジメント」と題する特別講演がありました。先生は日本理学療法士協会や世界理学療法連盟などの仕事をされていた経験より、理学療法士個人または組織人としてのマネジメントについて話されました。患者さんを管理する＝自分自身を心身ともに管理しなければなら

い...、というような哲学的かつ意味深いものでした。各論としてリスクマネジメント・クリニカルパス・職場管理についてのセミナーがありました。昨今の報道でも珍しくなくなった医療ミスにより、一般市民からは医療不信も高まっている。群馬県立心臓血管センター高橋哲也先生のお話の中にセーフティマネジメントへの変化とありました。これは十分な情報収集により適切なプログラムを立案し、運動療法の禁忌や中止の基準により事故のない理学療法を提供することを示している。私たちの職場にも危険は身近にあるものと再認識しました。厚生連高岡病院寺田一郎先生からはクリニカルパスの目的・効果と問題点、回復期リハビリテーション病棟の紹介がありました。急性期病院では独自のパスを作成し、インフォームドコンセントや在院日数短縮に役立っていることと思われませんが、反面ではリハビリテーション不十分の状態



本大会では、ポスター発表を中心に活発に討議がなされたことが、新しい試みだったように思います。

第2会場では前日までに展示されたポスターがパネル一面に展示され圧巻でした。ポスター発表には、発表者各自の研究内容だけでなく、ポスターそのものの見せ方（魅せ方？）によるものも大きいように思いました。写真の利用や文字の大きさなどの判りやすさや、まとめ方だけでなく、斬新な色使いの物もあり（赤と黒等）驚きました。そういったセンスも要求されるのだなあと、本当に感心しました。

ポスター発表では、テーマに分類された演題6つが、各場所にて同時に発表討議される形で進行していました。

各場所での発表それぞれは、正に熱気に包まれた状態でした。質疑応答が盛んに行われており、時間内に終わることが難しいほどの熱心な討議が行われている演題。通路の間隔が取れないほど参加者が多い演題。等々、参加者それぞれが関心を持ち、また日常の業務に反映できるよう、熱心に耳を傾け、参加している様子が伺えました。

ポスター発表では、発表者と参加者の距離

も近く、ポスターも繰り返し見直しながら、発表を聞くことができるため、積極的に質問や参考意見の交換が行いやすい発表の方法であると思いました。

第2会場展示区画では同時に医療機器展示が行われていました。普段の業務で大いに目にし、利用することの多い物理療法機器から、あるといいなと思わせるリラクゼーション機器まで様々な展示機器を使用体験することが出来ました。私の病院でも老朽化甚だしい牽引機器にも目を奪われました。座位のまま装着し、背もたれがリクライニングするような形になり、牽引を行うものでした。展示されている機器はどれも色合いが優しく、機能も様々で、病院にあればなあと物欲に駆られるものが多々ありましたが、私の意思だけではどうしようもできず...

また、ロビーの奥では福祉機器の展示も行われていました。利用者が使いやすいだけでなく、介助者にも扱いやすく、片づけやすいポータブルトイレ。利用者の動作の自立を促すだけでなく、介助者の負担を軽減する事をも目的として作られていることに多くの工夫が見受けられました。

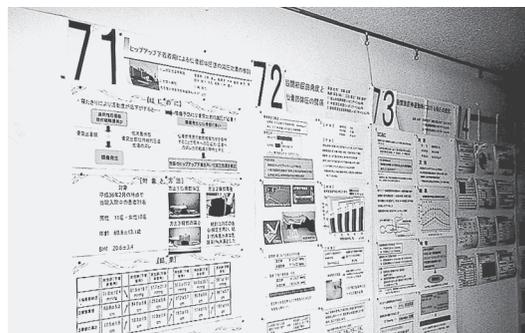


車椅子や靴の色や形、手すりの素材や材質などの選択肢が多数あるほうが、利用者個々の趣向もより反映されると思いました。

これらの医療機器・福祉機器は大会2日目の昼に各業者の方から紹介があり、興味のある参加者が質問等を踏まえつつ、説明を聞く場面も在りました。

加えて今回の学会は、第20回という節目の会であることから、ロビーでは大会20年の歩みの展示もあり、20年の時代の流れ（その年の社会情勢から流行にいたるまで）を感じました。これまでの学会学術誌の展示もあり、内容や発表数の増加に驚きました。その隣にはWHO運動器の10年に対する展示もあり充実した内容だったように思いました。

塚本病院 新森 靖子



理学療法題材に
事例報告や討議
富山
東海北陸理学療法学会
大会は三十日、富山市の
県民会館で「理学療法と
マネジメント」理学療
法をスムーズにするた
めにテーマに開かれた。
病院などに勤務する理
学療法士約五百人が参加
した。広島大学院保健
学研究所の奈良勲氏が
「理学療法士とマネジメ
ント」と題して特別講演。
セミナーでは、医療ミス
防止や、医療内容の開示
などをテーマに事例報告
があった。

10月31日 富山新聞

10月31日 北日本新聞



講演する奈良教授—富山市の県民会館

理学療法 富山で東海北陸大会
東海北陸理学療法学会
大会（奈良久裕大会長）
が三十日、富山市の県民
会館で開幕した。約五百
人が参加し、仕事をスム
ーズに進めるためのマネ
ジメントなどについて学
ぶ。三十一日まで。
初日は広島大学院
保健学研究科の奈良勲教
授が「理学療法士とマネ
ジメント」と題して講演。
セミナーでは厚生連高
岡病院リハビリテーシ
ョン科の寺田一郎氏が病
院の取り組みやクリニカ
ルパス（治療計画書）の
活用などについて話し
た。
ポスターを含め約百二
十演題の発表があるほ
か、福祉機器の展示など
も行われている。三十一
日午後一時からは、県民
会館で「高齢期の健康マ
ネジメント」パワースキ
ルアップセミナーをテー
マに市民公開講座を開
催。国際医療福祉大学大
学院の竹内孝仁教授が講
師を務める。入場無料。



社会事業部の活動より

第23回 富山市民ふれあい広場での活動

公立南砺中央病院 石原 瑞恵

社会事業部では、平成16年9月25日(土)、富山駅北親水広場にて開催された「第23回富山市民ふれあい広場」に参加し、ふれあい体験コーナーにて、車椅子体験、高齢者疑似体験の説明、指導、監視等を行いました。



当日は風が強く、肌寒い一日でしたが、多くの販売コーナーやフリーマーケット、レクリエーションコーナーが並び、子どもからお年寄までたくさんの人々が参加していました。

車椅子体験では、小学生の子ども達が多く参加し、小さな段差や坂道をわたり、「こんなに難しいと思わなし、こわい」などと話しながら、何度も何度も体験し、楽しんでいました。高齢者疑似体験では、用具6セットを使うのですが、その中の1つのサングラス

いきいきとやま



では、「ぜんぜん見えないものなんですね。」と、多くの方々が驚き、感心していました。参加部員2人(少ないのですが)は車椅子を乗りまわす子供たちに、はらはらしながら追いかけていました。

今回は、「世代間交流や障害をもつ人たちとのふれあいを通して楽しいひとときを過ごし思いやりの心を育む」を目的に開催されました。多くの方々が参加し、楽しい一時を過ごされたのではないかと思います。この社会事業部の活動も、思いやりの心を育む手助となっていれば幸いです。

今後もこのような活動に参加していきたいと思います。

第17回 健康と長寿の祭典

入善町役場 荒川 直美

人生80年時代を迎え、誰もが心身ともに健やかで、いきいきとした美しい人生を過ごせるようにとの県民すべての願いをこめて、10月21日・22日と県民会館にて『健康と長寿の祭典』が開催された。

その中では、理学療法紹介の他、いきいき、さわやか生活力測定、お口の体操、老人クラブ作品展、精神保健福祉展等が行われていた。

理学療法紹介では、高齢者の相談業務が主



であった。「肩が痛い」「腰が痛い」「膝が痛い」等の訴えが多く、痛みを軽減する体操や

生活の方法を紹介した。多くの高齢者は何らかの痛みとうまく付き合い、健康長寿をめざして欲しいという願いを感じた。

現在、日本はただならぬ高齢化率、特に富山県はもうすぐ4人に1人が65歳以上となっ

ている。この中で高齢者の生きがいづくりや社会参加への関心を高め、富山全体、日本全体が寝たきり防止をすすめ、『健康寿命』の長い県、国をめざしてゆきたいものである。

リハビリテーション研修会

11月10日(水)、サンシップ富山において、上記の研修会が開催されました。県内の特別養護老人施設で働いている看護師、介護士、ケアワーカーの方々36名が参加され、講師には城戸先生、堀尾先生、福田先生をお招きし、「日常生活と歩行訓練～歩行能力の評価からプログラミング～」のテーマについての研修を行いました。

研修会は、城戸先生による「高齢者の歩行能力」に始まり、次いで堀尾先生による「介護段階と歩行プログラム」、福田先生による「歩行訓練の実際」という内容で進行されました。内容は生理学・運動学・解剖学など基礎的なものを含み、専門用語が多く登場するものでしたが、講師の方々はそれらを非常にわかりやすい言葉でお話しされ、実演を交えて説明されたり、時には冗談を交えたり(失笑することも...!?)と、楽しくてわかりやすいものでした。参加者の方々はその話真剣な眼差しで聞き入っていました。



その後には、参加者の方から提供して頂いたいくつかの事例について、先に紹介した講師の方々に福江先生、政井先生が加わり検討会が行われました。参加者の方々は、職場に

PT・OTがいなかったため、いくつもの疾患をもつ人・恐怖心が強い人・痴呆をもつ人などに対してどのようなリスク管理をしながら、歩行訓練のプログラムを作成していけばよいのかわからないという意見や、術後1週で退院されてきたが経過・現状報告がなく何をしてもよいのかわからないといった意見が多く聞かれ、検討会は活発な意見交換が繰り広げられる熱気にあふれたものとなりました。



今回の研修を通じ、PTがいなかった施設だからこそリハビリ状況の情報提供が非常に大切だということを改めて感じました。PTとして他施設・他職種の方々の貴重な意見を聞くことができ非常によい研修会となりました。

誠友病院 吉田 佳織



施設見学ツアー

保健福祉部障害福祉部会

去る9月3日、10日に我々保健福祉部障害福祉部会は、“在宅や施設サービスの有効性について、理学療法士の視点で見てみよう”との思いで、富山市障害者福祉プラザ、老人保健施設「チューリップ苑」、特別養護老人ホーム「光風苑」へ見学に行ってきました。

詳細(検討結果)については、また別の機会にお知らせしますので、今回はその雰囲気をお伝えします。

最初は、支援費サービスの障害者福祉プラザから始まり、通所作業センター内のガラス工芸共同作業所、アミティ工房を見学しました。ここでは、病院からでる薬の空き瓶をリサイクルしたガラス製品、アクセサリなどを作っています。また、それからは福祉のお店(総曲輪通り、国際会議場、アピア、いこいの村、吉峰、CIC)や当作業所で販売していますので、みなさんも是非一度足を運ばれてはいかがでしょうか。(楽しい面々がとても商売上手にやっていますよ~)

チューリップ苑では、デイケアを見学。利用者は一日約60人、PTによる個別リハビリ



も行われていました。デイルームに入ると笑い声が響き渡り、約半数の利用者がボーリングで盛り上がっていました。活動性？

次に、光風苑(特養)では、デイサービスと今話題のユニットケア「こもれび」を見学。そこでは、ゆったりとした空気の中、入所者の方々がのびのびと生活。リビングの照明も“ちょっと”暗くていい感じ。緑がいっぱいの中庭には、園芸療法で作られた鉢がかわいく並んでいました。私も将来ここに入所できたらいいな~と思ったぐらいですが、残念ながら只今入所待ち200名だそうです...ということで、今は在宅生活をサービス利用面から考えて、またみなさんに報告したいと思います。かみいち総合病院 城前 美奈

イレクターの魅力

「暮らしやすい生活環境を目指して」~住宅改修例と在宅におけるイレクターの活用~

と題し、九州リハビリテーション大学の堤文夫先生を講師に招き9月26日、富山医療福祉専門学校において研修会が行われた。

イレクターがどんなものであるかわかっていたつもりであったが、シャワーチェアや段差解消のスノコとしての利用しか考えたことが無かった自分は、先生の講義の中で紹介された歩行器や自宅のテラスのスライド画像



を見たときには、相当の衝撃を受けた。福祉用具としてのみではなく、我々の日常生活に充分

に活用できるものであるとわかり、より身近に感じ、また気軽に作ってみたいと感じた。

そのような気持を抱き、午後からはイレクター製作の実習を行った。ヤザキ化工の協力もと、4~5人が1グループとなり腰掛の製作を行った。パイプの切断やヤスリがけジョイントとの接着等を設計図を見ながら行っていると、自分は中学時代の「技術家庭科」の実習授業を思い出し、懐かしさの薫る興奮を抱きながら、製作に協力した(と思う)。



完成した腰掛はどのグループも素晴らしく、完成品の持ち帰りの際には殺意すら垣間見えた熾烈な争奪戦があったことをここに記しておく。

今回の研修会に参加したことによりイレク

ターの無限の可能性を知ることができ、自身が今後関わる住宅改修や家屋指導の際に役立つものとなった。

氷見市民病院 新 清 浩

「身障スポーツ対応委員会」大会サポート報告

平成16年10月24日(日)、第34回日本車椅子バスケットボール選手権大会(内閣総理大臣杯争奪)予選が、新湊市総合体育館で開催された。東海北陸地区より10チームが出場し決勝出場を駆け汗を流した。

今回、主管である富山県車椅子バスケットボールクラブから富山県理学療法士会が依頼を受け、大会サポートとしての理学療法室を開設する運びとなった。運営スタッフとして身障スポーツ対応委員会より高畑芳信(高岡市民病院)、田中真由美(山田温泉病院)、倉田繭子(光が丘病院)、森佐知子(富山医療福祉専門学校)、協力・援助として宮原謙一郎

(成和病院)、酒井吉仁(富山医療福祉専門学校)が参加した。

熱戦が繰り広げられる中、理学療法室利用者は、9名(アイシングのみは除く)で、障害内訳は、頸部痛2名、肩痛6名、母指MP関節1名であった。実施内容は、ストレッチ・マッサージ7例、物理療法5例(レーザー3例、直流通電2例)、トレーニング指導2例、テーピング(指導含む)1例、アイシングのみ6例であった。

利用者の声として、「身障者国体ではこのようなサポートを受けたことがあるが、種々の大会で開設してもらえると有り難い。」「トレーニング指導を受けたことが無かったので大変参考になった。」「頸、肩の痛みが軽減した、楽になった。」などが聞かれた。

今後も、身障スポーツのサポートを行っていく予定です。皆様のご協力・参加をお待ちしています。

富山医療福祉専門学校 酒井 吉仁



平成16年度

第4回理事会報告

日時：平成16年9月3日(金)

場所：富山医療福祉専門学校

出席者：荻島 田村 塚本 島倉 堀尾

滝田 川合 城戸 寺田

< 報告事項 >

事務局報告事項：PT協会関連、各都道府県士会関連、関連団体郵送物等報告。

第17回北陸三県交流会報告(厚生部)

平成16年6月19日(土)～20日(日)富山県氷見市にて開催。参加者は北陸三県合わせて懇親会が合計51名、ソフトボールは57名であった。立地の良さ、料理等多くの好評をいただいた。

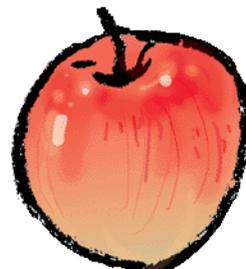
第1回ケーススタディー(学術部骨関節疾患研究会)：平成16年7月12日(月)富山協立病院にて開催された。参加者は15名であったが、難渋している症例や治療方法についてディスカッションが行われた。

< 検討事項 >

1. 保健福祉部施設見学計画(保健福祉部)：平成16年9月に通所サービス施設を4施設見学する。現状やそのあり方について士会ニュース等で報告することとした。
2. 第2回ケーススタディー計画(学術部骨関節疾患研究会)：平成16年9月6日(月)富山協立病院にて開催予定。グループワークを取り入れ、より集中的にディスカッションが出来るように計画。理事からはアドバイザーの設定などについてアドバイスがあった。
3. ケーススタディー計画(学術部中枢神経系研究会)：平成16年9月11日(土)富山県高志通園センターにて開催予定。テーマは「片麻痺の評価と治療～ビデオケーススタディー～」で講師は仲川仁氏である。
4. ノーマライゼーション推進事業「第23回富山市ふれあい広場」参加計画(社会事業部)

：平成16年9月25日(土)、富山駅北親水広場にて開催される。社会事業部員5名参加し、車椅子体験、高齢者疑似体験コーナーを運営する。

5. 第1回研修会計画(学術部生活支援研究会)：平成16年9月26日(日)、富山医療福祉専門学校にて開催予定。講師は堤文生氏(九州リハビリテーション大学)である。
6. 第1回小研修会計画(学術部呼吸ケア研究会)：平成16年10月1日(金)、砺波総合病院にて開催予定。テーマは「なるほど人工呼吸器」講師は伊藤正憲氏(ME)、嶋先晃氏である。
7. 第1回研修会計画(物理療法研究会)：平成16年10月15日(金)、富山医療福祉専門学校にて開催予定。テーマは「EMC規格と超短波治療器の最新知見」、講師は伊藤民男氏である。
8. 組織検討委員会報告：士会員を取り巻く状況、士会法人化を念頭においての組織検討について中間報告が行われた。学術、教育活動の整備、公益的社会活動に向けて職能局、社会局の体制作り、更に協会組織との整合性をもった組織としてのニーズを考慮し今後更に具体化し答申案を作成する。
9. 第20回東海北陸理学療法学会大会準備委員会報告：学会大会の準備状況、具体的役割等の報告、確認が行われた。
10. その他：平成16年10月2日高志リハ病院20周年記念式典に荻島会長、同日の市立砺波総合病院竣工記念式典に社会局長堀尾氏が出席することとなった。



平成16年度

第5回理事会報告

日 時：平成16年10月22日(金)

場 所：富山医療福祉専門学校

出席者：荻島 田村 塚本 島倉 森山
滝田 川合 城戸

< 報告事項 >

事務局報告事項：PT協会関連では国庫補助事業としての調査協力依頼。関連団体では富山県医師会より富山県医療推進協議会への参画依頼等郵送物等の報告。

その他会員異動状況が報告された。

第2回ケーススタディー報告(骨関節疾患研究会)：平成16年9月6日(月)富山協立病院にて開催された。参加者は17名あった。

第1回研修会報告(生活支援系研究会)：平成16年9月26日(日)富山医療福祉専門学校にて開催。参加者は63名であった。イレクターの屋外展示も行われ、実際の製作過程を体験でき、有意義な研修会であった。収支決算も合わせて報告された。呼吸ケア研究会第1回小研修会報告(呼吸ケア研究会)：平成16年10月1日(金)市立砺波総合病院にて開催。参加者は22名であった。

第2回研修会報告(物理療法研究会)：平成16年10月15日(金)富山医療福祉専門学校にて開催。参加者は39名(学生10名含む)であった。

全国士会長会議報(会長)：平成16年10月22日(金)奈良県三井ガーデンホテルにて開催された。各局の検討課題等報告された。士会役員講習会では「公益法人の今後の行方」と題して講演会があり、2年後には法人認可の方向性が示されたとのこと。

< 検討事項 >

1. 第3回介護老人福祉施設におけるリハビ

リ研修会計画(社会事業部)：平成16年11月10日(水)サンシップとやまにて開催予定。昨年のニーズに応える形で同様の内容で1日のプログラムで開催する。

2. 第3回ケーススタディー計画(骨関節疾患研究会)：平成16年11月15日(月)富山協立病院にて開催予定。

3. 第4回循環器講習会計画(循環器研究会)：平成16年11月21日(日)厚生連滑川病院にて開催予定。主に予算内容について検討された。

4. 組織検討委員会報告：基本的に5局体制を検討しており、次回理事会までに最終答申案を作成予定であると報告された。



バイオデックスシステム3 BIODEX MEDICAL

多用途筋機能
評価訓練装置

BDX-3

酒井医療株式会社

本社：東京都文京区本郷3-15-9 TEL 03(3811)7211
金沢出張所：金沢市若宮町156街区9-1 TEL 076(223)4420

学術資料部からのお知らせと、 原稿募集について

ミニ情報（ISBNとISSNについて）

最近出版される本のほとんどにISBNと呼ばれる番号がついています。ISBNとはInternational Standard Book Number（国際標準図書番号）と言って、その本に与えられたIDのようなものです。図書を検索するときこの番号を使うととても便利です。

ISSNはISBNの雑誌版で、International Standard Serial Number（国際標準逐次刊行物番号）と言って、全世界で刊行されている逐次刊行物を識別するために考案された番号です。学術雑誌のほとんどに付与されていて、研究目的の検索に際しては大変有用です。ISBNやISSNは世界でその図書、その雑誌だけに割り振られた番号です。図書や雑誌を検索するときは利用してみてください。ISSNを管理する組織をISSNネットワーク（ISSN Network）といいます。ISSNネットワークは、パリの国際センターをデータ・バンクとして、世界各国の国内センターと連携してつくられる逐次刊行物に関する情報交換のための国際的なネットワークです。日本では国立国会図書館が、法定納本図書館として国内の逐次刊行物を収集している立場から、ISSN日本センターとしての活動を行っています。

お知らせ（生涯学習プログラムに関連して）

富山県士会発行の「みんなの理学療法」はISSNを取得しています。ですから、「みんなの理学療法」に論文等が掲載された場合には、生涯学習基礎プログラムの単位として認められます。

生涯学習基礎プログラム

論文の場合

論文の場合ISSNの認可のある学術誌に掲載された論文

筆頭者 5単位 共著者 1単位

但し、学会抄録や地方の学術特集号（発表演題の原稿）はこの限りではない。

依頼原稿、総説論文、著書についても同様に認める。

更新に際しては、論文の目次等証明になるものを添付する。

（日本理学療法士協会ホームページより）

また、専門理学療法士認定条件としても認められます。

お願い（原稿募集について）

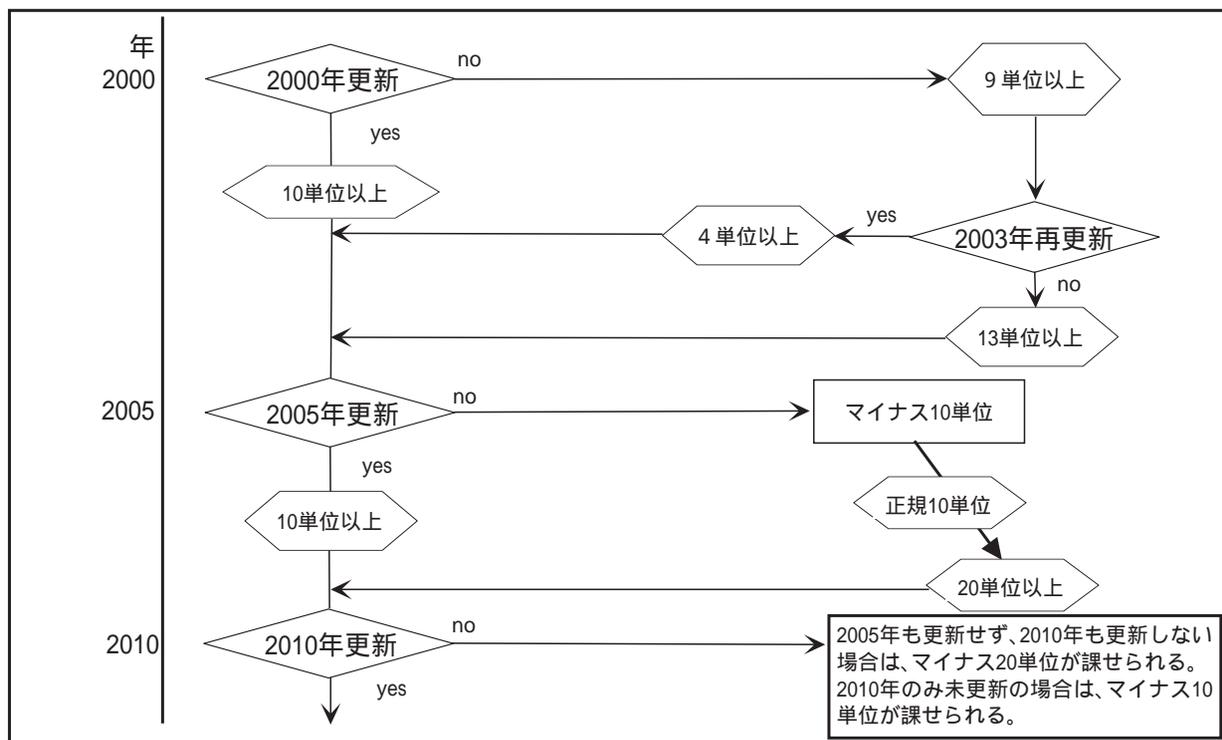
今年度は、富山県で東海北陸理学療法学会大会が開催されますので、富山県理学療法学会は開催されません。そのため、富山県理学療法学会の発表原稿を掲載できず、ページ数が極端に減ってしまうことも考えられます。出来るだけこのような事は避けたいと、企画会議を重ねているところであり、合わせて、会員の皆様からの研究論文、報告等の投稿を募集したいと想います。学術資料部員一同、心よりお待ち申し上げております。なお、投稿規定は、「みんなの理学療法」の巻末に掲載されておりますので、ご参照の上、投稿していただける様にお願致します。（学術資料部員一同）

生涯学習委員会からのお知らせ

2005年は生涯学習基礎プログラム(以下：基礎プロ)の更新年です!!

今回は新人教育プログラム(新プロ)未修了以外の方は対象です
単位は2000～2004年度(平成12年度～16年度)の単位が有効です

フローチャートの見方：チャート内に単位数がない方は、下の規定単位数を参照下さい。



規定単位数

2000年更新(免除者含)者および2000年以後生涯学習基礎プログラム開始者

新プロ1999年(H11年)度以前修了(基礎プロ2000年度以前開始(新プロ特例措置者含む))	: 10単位以上
新プロ2000年(H12年)度修了(基礎プロ2001年(H13年)度開始)	: 8単位以上
新プロ2001年(H13年)度修了(基礎プロ2002年(H14年)度開始)	: 6単位以上
新プロ2002年(H14年)度修了(基礎プロ2003年(H15年)度開始)	: 4単位以上
新プロ2003年(H15年)度修了(基礎プロ2004年(H16年)度開始)	: 2単位以上

2005年度休会中会員の取り扱い

2005年度休会中会員については、2000年～2009年の20単位のうち、休会年×2単位を減じた単位数を2010年に報告する。

註：新プロ特例措置者とは、昭和60年度以前の協会入会者をさす

○新人教育プログラム対象者で、協会主催または後援等の冠がある学会・研修会・講習会に参加された方は、その学会等を新人教育プログラム対応研修会として読み替える事ができます。参加を証明する『受講証明書』あるいは『領収書』等を士会学会や研修会時に、生涯学習手帳と一緒に提出して下さい。単位認定を致します。但し、どの単位に対応するかは委員会の方で決めさせていただきます。

会員歴10年以上を有している方で、新人教育プログラム未了の方は、症例検討、とトピックス、を除き他の履修単位6単位(但し、生涯学習の単位必修)にて新人教育プログラム終了となります。対象の方は、生涯学習委員会までご連絡ください。

士会研修会の時には、必ず、生涯学習手帳を持参して下さい。

杉野脳神経外科病院

当医院は、今年で22年目を迎える病床数51床の一般病院です。診療科目は脳神経外科・循環器科を中心に内科・整形外科・リハビリテーション科があります。

リハビリテーション科は、理学療法士1名スタッフ2名の計3名で運営しています。当科に理学療法士が入ったのは今年度からであり、今年6月より施設基準を取得しました。現在、病院の中でのリハビリテーション科の充実を目指し、また様々な変化の中で試行錯誤を繰り返し、他職種との連携のとり方、個々の症例にどのように対応していくかなど、一つ一つ問題に取り組んでいるところです。

脳神経外科・循環器科が中心であるため、入院患者様のほとんどにリハビリオーダーが出されます。特に当院は『早期発見、早期治療』を理念としており、患者様の入院が決まった時点ですぐに連絡があり、医師の診断、看護師の情報、理学療法評価等を統合させ、治療プログラムを検討し、すぐに実行に移されます。

当院は少人数での運営のため、スタッフ個々の負担は大きいですが、急性期から患者様に接することができ、患者様の意見に密に耳を傾け、全体像を把握し、方向性を見つけていくことが可能となります。

私自身、経験・知識不足から業務全般において迷い、右往左往することが多々あります。『一人前の理学療法士』と呼ばれるまで何年かかるか分かりませんが、患者様一人一人のニーズに応えられるよう日々頑張りたいと思っています。

リハビリテーション科 有島 智之

士会員の独り言

南砺市民病院

川島 慎司

平成16年11月1日より南砺8町村が合併し『南砺市』が誕生したことをご存知ですか。わたしの働いている公立井波総合病院も南砺市民病院へと改名しました。気分一新で働いております。これを機会にわたしのこの一年を振り返ろうと思います。昨年12月より当院では新病棟が増築され、回復期リハビリ病棟と通所リハビリテーションが始まりました。わたしはそのうちの通所リハへ所属となりました。

15年12月、当院での通所リハ開始に向けての準備が始まりました。その頃は立ち上げに向けて毎日がパソコンとの格闘。マニュアル作成、マニュアル作成なんて日々が延々と1ヶ月以上続きました…。この間は全く患者などはみておりません。この頃のつぶやき：たぶん明日倒れる…

16年1月末。ついに通所リハ開始となりました！最初の利用者は3名。徐々に増えてはきましたが、今思うと「仕事している」なんてもんじゃありませんでした。職員（5人）の方が多いじゃないですか…。この頃のつぶやき：こんなに楽しくお金もらっている…

16年4月、通所リハ利用者がどんどん増えてきています。やっとPTとして働いているな、なんて感じながら毎日を過ごしていました。利用者の評価をし、訓練プログラムを考える、その後再評価してまた訓練。たまには在宅評価まで行っていました。この頃のつぶやき：あ～忙しい。忙しい。

16年8月。今年の夏って暑くないっすか…。わたし送迎に出てるんですけど、今まで院内での仕事しかしていなかったので気付きましたが、外やばいです。この頃のつぶやき：朝から30度か…今にも倒れそうだよ…

今現在。通所リハ利用者も順調に定員に達しており、毎日が忙しくも楽しい日々です。この一年を振り返ってのつぶやき：う～ん、やっぱりパソコンなんかとにらめっこしないで、利用者さんと一緒にPTしているほうがよっぽど性に合ってるな。

事務局インフォメーション

財務部より

協会・士会費の徴収について
平成17年度より協会で行っている自動振替
制度に移行致します。

従いまして、新たに預金口座振替依頼書の
提出が必要となります。

現在、士会の自動振替制度を利用されてい
る方や、まだ申込をしていない方は、至急事
務局まで預金口座振替依頼書を郵送頂きます
ようお願い致します。これを機に是非、協会
の自動振替制度をご利用下さい。

広報部の窓口から

広報部では、富山県士会員の方から、
士会活動の案内等、理学療法に関係があ
ると思われる様々な記事を募集し、士会
ニュース伝言板に掲載していく予定です。

掲載希望の方は、富山赤十字病院 林
朝美 まで連絡をお願いします。

【連絡先】

〒939-0859 富山市牛島本町2-1-58
富山赤十字病院 リハビリテーション科
林 朝美 まで
TEL (076) 4 3 3 - 2 2 2 2
FAX (076) 4 3 3 - 2 2 7 4
E-mail
rehabili@toyama-med.jrc.or.jp

義手・義足・コルセット・松葉杖
車椅子・電動車椅子 各種
補聴器 世界の補聴器を取り揃えています
日常生活用品 ベッド・便器・風呂・湯沸し・盲人時計。
看護介護用品・リハビリ用品
ストマ用品・アルケア・スクイブ

シルバーマーク認定店
(有) 富山県義肢製作所
認定補聴器専門店
富山県補聴器センター

〒930-0042 富山市泉町1-2-16 TEL (076) 425 - 4279 (代)
FAX (076) 425 - 4587

訃 報

川尾 明平先生が 12月1日
午前5時30分死去されました
(享年 85歳)
故人のご冥福をお祈りいたします

渉外部の相談窓口

日常業務での疑問・悩み事等に対して、渉
外部では電話による相談を受け付けています。
お気軽に何でもお尋ねください。

電話番号(0765)24 3999 FAX(0765)24 3684
魚津市健康センター 森山まで
E-mail : akira-moriyama@city.uozu.toyama.jp

自宅での療養のために 福祉用具のレンタル・販売

介護用品 車椅子 特殊ベッド
移動リフト 人工肛門 福祉家具
住宅改造 在宅酸素



心にやすらぎを——在宅医療用品専門ショップ

株式会社 トミキライフケア

高岡支店 ●〒933-0847 高岡市千石町3-20 ☎(0766) 26-7171
本店 ●〒920-0061 金沢市間屋町2-49 ☎(076) 237-0708

編集後記

第20回という節目の、東海北陸理学療法学
術大会も終了しました。(只今11月上旬) 日
頃の研究の成果を演題発表された方は勿論当
日の運営スタッフとして活躍された士会員
の方々も多かったことと思います。きっと肩の
荷も降り、ホッと一息ついておられるのでは
ないでしょうか?

さて、今年の本州列島には次から次へと、
自然災害が、降りかかりました。数も多けれ
ば被害も大きかった台風。浅間山の噴火。今
もまだ、余震が相次ぐ新潟県中越地震。被災
地の方々の不自由な避難所生活は続くよう
です。これからの新潟では冬の到来です。寒さ
や雪に対する備えも必要です。被害の拡大を
阻むためにも対策を早急に国に願う次第です。
私も私なりに出来る事を考え、行動に移した
いです。